

令和 7 年 9 月越前町議会定例会

(第 2 号)

令和 7 年 9 月 4 日

目 次

第2号（9月4日）

○出席議員及び欠席議員氏名……………	1
○会議録署名議員の氏名……………	1
○職務のために議場に出席した者の職氏名……………	1
○地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名……………	1
○議事日程……………	2
○開 議……………	3
○一般質問……………	3
寺 坂 大 地 君……………	3
中 野 斗 夢 君……………	9
○散 会……………	19

出席議員及び欠席議員氏名

議席番号	氏名	出席	欠席	摘要
1	中野 斗夢	○		
2	斎藤 諒太	○		
3	寺坂 大地	○		
4	川口 宜亮	○		
5	高松 恒雄	○		
6	駒野 孝一郎	○		
7	小松 高宏	○		
8	吉田 憲行	○		
9	藤野 菊信	○		
10	米沢 康彦	○		
11	佐々木 一郎	○		
12	伊部 良美	○		
13	笠原 秀樹	○		
14	木村 繁	○		

会議録署名議員の氏名

10番議員	米沢 康彦	11番議員	佐々木 一郎
-------	-------	-------	--------

職務のために議場に出席した者の職氏名

事務局長	齋藤 健治	事務局次長	岡田 寿子
事務局書記	青山 晴彦		

地方自治法第121条により説明のため出席した者の職氏名

町 長	高田 浩樹	副 町 長	水島 博之
教 育 長	大川 伸介	総務理事	山口 隆司
民生理事	荒井 基志	産業理事	高木 剛彦
建設理事	原 雅哉	会計管理者	谷口 浩之
教育委員会事務局長	佐々木 直人		

令和 7 年 9 月越前町議会定例会議事日程〔第 2 号〕

令和 7 年 9 月 4 日（木）

日程第 1 一般質問

開議 午前10時00分

○議長（藤野菊信君） おはようございます。

本日は定例会2日目でございます。よろしくお願いいたします。

ただいまの出席議員数は14名です。定足数に達しておりますので、これより本日の会議を開きます。

議事日程については、お手元に配付のとおりです。

日程第1 一般質問

○議長（藤野菊信君） 日程第1 一般質問。

昨日に引き続き一般質問を行います。

初めに、3番、寺坂大地君。

3番（寺坂大地君）登壇

○3番（寺坂大地君） 議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づき一般質問をさせていただきます。

初めに、通告書では端的な質問内容のみを提出させていただいたんですけれども、支援者の方から6月、前回ですね、ちょっと難しい言葉、横文字とか片仮名とかを使い過ぎて分かりにくかったとご指摘いただきましたので、少し例え話などを盛り込むことをちょっとお許してください。趣旨とか要旨は通告書のとおりにかと思えます。よろしくお願いいたします。

まず、6月定例会におきまして、ふるさと納税事業20億円目標について質問させていただきました。その際、町長から新たな地場産品開発支援策の検討といったご回答をいただいております。その際に私のほうからK P I、いわゆる達成目標みたいなものを設定しました詳細なロードマップ、設計図というものを策定いただけないかということでご提案をさせていただいているところです。本日は、そのロードマップを確実に実現していくために、推進体制というものを構築していただけないかというところで、具体的な提案をさせていただきたいと思えます。

質問に入る前に、せっかく傍聴に来ていただいている方とか、こちらの配信をご覧いただいている方向けに少し、なぜふるさと納税に私はここまで力を入れているといたしますか、質問させていただくのかというバックボーンといたしますか、背景についてご説明だけさせていただきます。

こちらはふるさと納税の寄附増額というものに関してですけれども、ふるさと納税というものが国とか県というものの、紐付きのというところちょっと語弊があるかもしれないですけれども、条件付のいわゆる予算と違いまして、一般財源独自の自主財源といたしますか町がある程度、本町が自由に使える認識でおります。例えば昨日もいろいろと一般質問に出てきておりましたし、今、町民の皆様も非常に感じておられることだと思いますけれども、教育支援であるとか公共交通の維持であるとかいろんなところに自由に使える、ある程度裁量を持っても使える財源なのかなという理解でおります。

しかもこのふるさと納税というのは越前町外、町外からいわゆるちょっと言い方が正しいのか分からないですけれども、外貨を稼ぐという性質を持った、かなり珍しい財源なのではないかなという意識でおります。そういった意味でこのふるさと納税というものが増えていきますと、増えれば増えるほどといたしますか、いろんな分野、こちらにおられる理事の皆様も自由に使えるような、提案できるよ

うな財源として使っていただけるのじゃないかなと思ひまして、ぜひぜひ拡充、増額というものをぜひぜひ皆様に目指していただきたいと思います。こちらをぜひ住民の皆様にもご承知おきいただきまして、ぜひこれからも注視していただきたい分野の一つでございます。

それでは、質問に入りたいと思います。

質問事項1について、まず6月にご提案させていただきましたK P I、達成目標というものを設定したロードマップ、すなわち設計図の策定につきまして、現在の検討状況をお聞かせいただきたいと思います。

20億円という目標を達成するためには単なる願望ではなく、具体的な施策と効果を積み上げた戦略的な計画というものが必要になってくると思います。ちょっと例えを使わせていただきますけれども、これ例えば家を建てるときなどに当然設計図は作るはずで。間取りはどうするのかとか敷地面積はどのぐらいなのか、柱はどこに建てるのかというところを、こういった資材なんかはどこから調達するのかとかといったところも含めて、計画がないと場当たりの、じゃ、いきなり柱を立てようとか屋根を造ってしまおうという、場当たりの計画になってしまいかねないという懸念があります。

ふるさと納税20億円の挑戦というのは、非常に野心的ですばらしい試みだと思います。こちら、設計図がなければ掛け声だけで終わってしまう。建てるぞという掛け声だけで終わってしまう可能性が非常に高いと感じています。前回、答弁の中にもいただきましたけれども、制度変更という大きな環境変化を控える中で、こちらのロードマップの策定は非常に急務かと考えます。現在どの程度検討が進んでいるかお答えください。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

総務理事（山口隆司君） 登壇

○総務理事（山口隆司君） 寺坂議員のご質問にお答えします。

今後ロードマップを含め、引き続き目標達成に向けた戦略やプランを検討してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） さすがに3か月で策定できるものではないと思いますので、また引き続きご検討いただければと思います。また、私のほうからもいろいろな提案書とかを提出させていただきますので、ご一読いただければ幸いです。

今回このロードマップ、設計図策定を実現するための推進体制、こちらを提言させていただくという冒頭でお話をさせていただきましたけれども、20億円を目指すためには従来の返礼品販売に加えて様々な、例えば先行事例というところで申し上げますと、例えばですけれども、体験型の返礼品、実際越前町に足を運んでいただくような返礼品ですとか、ガバメントクラウドファンディングという行政主導の返礼品だったりですとか、あとは複数事業者を掛け合わせたようなコラボ商品の企画というものなど、いろいろなアイデアが全国いろんな自治体で実施されているところかなと思います。

ただし、こうしたアイデアというものの自体は決して何か希少なものといえますか、なかなか出てこないものではないと私は考えています。というのもこういった全国の先行事例、成功事例、失敗事例といったもの、先行事例を収集して成功、失敗を整理していくというのは、結構行政の皆さんも既にされているところではあると思いますし、あるいは今、昨今話題のA Iなんかが非常に得意とする分

野だったりするので、そこのあたりは結構時短といいますか、A Iを代替させることで非常に業務を縮小、コンパクトにまとめることができるのかなと感じています。

どちらかといえば推進に当たりまして、20億円を目指すに当たりまして一番問題になるかなと思うのが、誰がやるのか、どうやるのかという、いわゆる人的リソースの部分が非常に問題になると私は考えています。例えば今、企画振興課という課が、山口理事以下がおいでですけれども、この企画振興課と外部委託先でおられますさちふるさん、こちらのいわゆるツーマンセルといいますか、非常に少数精鋭の体制で進めておられる現状かなと理解しております。

これは非常にこういう場で言うのはどうかと思うんですが、私は手放しで褒めちぎりたいぐらい非常に評価しているところでして、少数精鋭のコアチームで15億円もの成果を上げる。先ほどのちょっとおうちを建てる話にすると、たった2人で15億円規模のおうちを建てたということ。これ実績として非常に評価できる部分ですばらしいんですけれども、じゃ、今後20億円あるいはさらなる飛躍、30億円というところを目指すに当たりまして2人体制、2人の大工さんだけで大きな家、30億円、40億円の家を建てていくというのは、どうしてもやっぱり無理があろうことかなと感じているところで、何より何ていうか企画振興課の皆様をはじめとした行政職員の方の仕事量が、もうかなり圧迫されてしまうんじゃないかなという懸念が非常に大きいところです。

また、町長をはじめとして行政の皆様も15、2億円、満足されておられないということでもいただいているような気がする、勝手に解釈していますが、と思っていますので、私も本当に同感です。越前町のポテンシャルというものは本当にこんなものではないと感じています。これからさらに飛躍をするために、設計図がどれほど立派でも人手がなければ完成には至らないというところで、人的リソースにつきまして町としてどのようにお考えかご答弁をお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、お答えいたします。

これから新たな地場産品開発に対する支援策も含め、どのような戦略やプランが今後のふるさと納税推進に適しているかを検討していく中で、必要性に応じて組織の在り方も見直していきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） 組織をなかなか変えていくというのは非常に大変な作業になると思うんですけれども、いろいろな提案だけはさせていただきますし、ご協力できるところはしていきたいと思いますので、ぜひぜひ前向きに検討していただけたらと思います。

ちょっと続けます。この課題、組織の在り方というものを変えていくに当たりまして、非常に重要になってくるかなと思いますのが、役場、行政内部の職員さんの力だけではなく、外郭団体と言いがちょっと合っているのか分からないですけれども、町が支援している団体の協力を仰ぐということが結構重要なのかなと感じました。例えば観光連盟さんとか商工会さんというところは、これまで町の支援を受けて地域産業、観光業の発展に力を尽くされてきた、言わば非常に信頼できるパートナーなのかなと感じています。

そのパートナー、家づくりをまた多用するんですけれども、長年一緒に現場を支えてきたようなパートナーというところを、今20億円を達成、あるいはそれ以

上を達成していくという目標を立てる中で、全く力をお借りしないというのなかなか不自然なのかなと、無理があるのかなとっております。工務店さんでいえば例えば職人さんをかき集めるためのちょっと代理店さんを頼るとか、資材を購入するための問屋さんに問合せをするような話で、結局足並みをそろえていくというのは非常に重要な視点なのかなとっております。ぜひ町として商工会並びに観光連盟を巻き込んでいくということについて、どのようなお考えでいるのかご答弁をお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） お答えします。

現在、観光連盟には返礼品事業者として登録していただいております。返礼品としても連盟加盟店で利用できるふるさと感謝券を提供しています。また、返礼品登録事業者の多くが商工会に加盟していることから、これから実施予定の新たな地場産品開発の支援制度などについても周知を図っていただくなど、連携を図っていくことは必要であると考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） ありがとうございます。

今ご答弁いただいた内容で、既に観光連盟さんのほうとは足並みのある程度そろえていただいているのかなという感触を得ました。

一方で、今度は商工会のほうのご質問に入るんですけども、こちらの商工会、あ、ごめんなさい、その前に具体的な役割分担についての提案をさせていただきます。観光連盟とはある程度返礼品の事業者登録をさせていただいているところだと思うんですけども、観光連盟さんにつきまして、こちら観光連盟の立ち位置、これちょっとおうちを建てるところに例えるのは非常に難しいんですけども、いわゆる観光連盟さんの立ち位置というのは外部に対する宣伝活動、プロモーションですとか、あとは実際に体験型の返礼品みたいなものをブランディングしていく上で、多分、立ち位置としては専門業者、内装関係の専門業者とかデザイナーみたいなところに当たるのかなという気がしています。

既に旅行商品の企画、販売を観光連盟さん独自に行われているところだと思います。DMO化したとされているかと思うんですけども、観光事業者というものが越前地区をはじめとしていろんなところに点在しているかなと思うんですけども、そういったところの取りまとめが多分非常に得意とする、観光連盟が得意とするところかなと思います。越前町には本当にたくさんのコンテンツがありまして、陶芸体験であったり漁業体験であったり様々なコンテンツがある中で、そういった体験型返礼品を行政の方が、じゃ、こういう商品をつくりましょうと提案していくのは、なかなか現実的ではないのかなと思うところで、設計図に基づき観光連盟さんが腕を振るうということがあれば、越前町ならではの暮らしの魅力発信とか、訪れたいというところを考えていただける方へのリーチが達成できるのかなと思います。

町としてこうした、先ほどご答弁はある程度いただいておりますけれども、このような役割を観光連盟に今以上に期待し、積極的に今以上に推進していただくような展望というのはおありでしょうか。お願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） お答えします。

観光連盟につきましては先ほども申し上げましたが、返礼品登録事業者として、

また、連盟に加盟している事業者等も含めて、体験型返礼品の企画開発について話をさせていただいており、実際に関連している返礼品もあります。町といたしましても、昨年度より体験型返礼品の新規開発の推進を図っているところではありますが、今後、現地決済型ふるさと納税など、来町された方にふるさと納税制度を活用してもらうためにも、観光連盟の協力は重要であり、さらなる連携を図っていきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） 今のご答弁でしっかりと観光連盟さんのほうで働きかけをしていただいているということが理解できました。ありがとうございます。

続きまして、商工会の立ち位置といたしますか、こういった連携をしていくのかというご提案のほうに移らせていただきたいと思います。

商工会ですけれども、またおうちで例えてしまうんですけれども、いわゆる職人さんを束ねる親方みたいなのところにいるのかなと。ちょっと親方というと語弊がありますけれども、いわゆる町内の事業者さんを束ねる立ち位置にありますし、そういったところと日頃からいろんなやり取りをされている中で、非常につながり強い組織なのかなという理解でおります。こちらの日常的な交流というところを生かしまして、各事業者のニーズというところと今、越前町が発信していきたい部分、商品のPRをしていきたいというところのマッチングを行うところが非常に得意な会なのかなという考えでおります。

こういった事業者の熟知しているところが、先ほどちょっとちらっと申し上げましたけれども、コラボ商品の開発といったところとか、商品のリパッケージといいますかブラッシュアップといいますか、例えば同じこうしたファイルでも色を替えてみるだけで、もしかしたら売上げが伸びるかもしれないといったところを試行錯誤するようなハブというか、歯車の一番基礎の部分といいますか、というところに当たっていただくことで、よりスムーズかつ何か発展的な展望が見えてくるのかなと考えております。

例えば越前焼という一大コンテンツと、今すごく需要が高まっております越前の地元のお米、地場産のお米というものを組み合わせて、究極のご飯セットみたいなものを出していくとか、いろんな多分アイデアというものは次々出てきますし、それこそ先ほど申し上げましたけれども、AIを使えばいろんなアイデアを次々出していくことは可能なのかなと考えております。

こうした中で商工会の持つ調整力というものをもう全力で利活用しまして、地場の特産品とか事業者さんのエネルギーというものを1つにしていく、唯一無二の返礼品を構築していくことについて、町として商工会にこのような役割を、促進役ですね、取りまとめや促進役を期待されるのかどうかご答弁をお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、お答えします。

議員ご提案のとおり、商工会に事業者間の連携の促進役を担っていただくことで、コラボ商品などの商品開発に寄与するものと考えておりますので、今後ともよりよい商品開発を目指して協議してまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） 私のほうでも、ちょっと商工会さんのほうには少しヒアリングと

いいですか、しているところでして、向こうも別にしたくないとかそういったあれではもちろんないと思いますし、いろんなところで協力体制は築けていけるのかなという肌感で今おります。ちょっと明言は避けますけれども、ぜひ今後ともいろんな調整とか、打診とかを積極的に町のほうからもしていただきたいなと感じております。

それでは、最後になります。

全体の体制のチームビルディングといいますか、推進体制の大枠について少しご提案のほうをさせていただきたいと思います。

もう一貫しておうちを建てるというところで例えさせていただきましたので、ちょっとそこになぞらえてご説明していきますけれども、町企画振興課が今携わっているところに関しては、あくまで設計図を描く部分、プロデューサーとしての立ち位置といいますか、設計士というような立ち位置でいていただきまして、いわゆる現場の業務であるというところを、今現在委託しているさちふるさんにこれまで以上をお願いするところがすごくスムーズなのかなと思います。なかなか行政の職員さんがブランディングとかを手がけていると、もう多分通常の仕事も回らなくなるのかなと思いますので、ぜひぜひどんどんアウトソーシングというとまた怒られますね、外部にどんどん仕事を振っていくというのがすごく大事なのかなと思います。

外部委託先、さちふるさんだけでは、なかなか業務が圧迫されてしまうのかなと思いますので、そういったところに専門業者として業者の取りまとめをするところを観光連盟さんと商工会が担うことで、それぞれディレクターだとかコーディネーターだとかといったところを担うことで、非常にチームとして役割分担が明確になりますと、それぞれのやるべき仕事というのが非常にシンプルになって、結果よりよいものが生まれていくといいますか、加速していくというのは実際いろんな市町でも先行事例、成功事例がございますので、ぜひぜひそういったところを参考にいただきながら役場の仕事をシンプルにしつつも、これまで以上の成果を出せるような仕組みというものは多分つくれるはずですので、そういったところをぜひ推進していただきたいと思っております。

ふるさと納税、先ほど申しました大きな家を建てる、20億円以上の大きな家を建てるというための目標があるのであれば、こういった組織図というものがまずありますと、町の設定する設計図というものの実現可能性というのは非常に高まるのかなと思います。町として官民連携という言い方をしますけれども、民間の組織とこういった公官庁といいますか、行政が手を携えるというところに関しまして、なかなか難しいと思いますが、そういう組織体制の構築についてどのような考えかぜひお答えください。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

まず今後のふるさと納税推進に向けた新たな体制、また、今回の一般質問を通してすごく分かりやすいご説明をいただき、ご提案いただきありがとうございます。今後はいただいたご提案を参考にするとともに、また先進事例の活用、また本町の状況なども鑑みながら、ふるさと納税がさらに飛躍していくために適した体制が構築できるよう、十分に検討していきたいと考えております。今後もまた引き続きご理解、また、ご提案、ご協力などを賜りますようよろしくお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 寺坂大地君。

○3番（寺坂大地君） 最後に、ちょっと1つだけ付け加えさせてください。

私も提案とかを引き続きさせていただくんですけれども、何分行政の現場とかはまだまだ理解が浅いところがございますので、またいろいろとご指摘もいただきたい。逆にご指摘もいただきたいところではありますし、また、何ていいますか協働できるところは協働させていただきたいと思います。

少し住民の方に説明が足りていない部分もあるかなという気もするので、少しだけ付け加えさせていただきます。ちょっと制度変更というところもありますので、今年10月1日、来月頭から、ふるさと納税のオンラインショッピングサイトでのポイント還元というものがなくなる予定であります。いわゆるポイ活というものができなくなるということですね。さらに来年度、地場製品の基準が非常に厳格化されるというところも見通しとしてございます。

こうしたところから市場規模というか、市場の動向というものが結構変わってくる見込みがありまして、これまでのお得感、価格競争みたいなところから、価値というものを追求する。もう本物が欲しいという方が、高くてもいいからいいものが欲しいという市場に変わっていくのかなと私は感じています。返礼品そのものにやっぱり魅力がないと消費者の方も手に取らないのかなと、そういう時代が到来すると私は確信しています。

ただし、やっぱり幸いですけれども、本町、日本六古窯の一つである越前焼はもちろんですし、全国区のブランドである越前がに、豊かな自然が育むお米、またすごく需要が今、高まっております。こちらは一級の方法というものがそろっている。全国でも本当に恵まれた町の一つなのかなという感覚がございます。本当に全国と真っ向から勝負できる、それだけのポテンシャルがあると思います。

本当に正直に申し上げてしまいますけれども、昨今の米の価格高騰、プラス物価高騰もございます。インフレ傾向がございます。こうしたところで恐らく現状維持の状態でも20億円、それに近い寄附金額というのは達成できるのではないかという見込みを勝手にさせていただいているところです。ただし、やっぱりそれに満足すべきではないのが、多分本町の持つポテンシャルのすごさなのかなと感じます。

再三申し上げますけれども、越前町はこんなものではないはずですよ。本日、私が申し上げた組織の在り方みたいなものというのは、あくまで提案の一つにすぎません。やっぱり町の考える組織の在り方ですとか、こうやったほうが絶対現場は回るぞという感覚って必ずあるはずですよ、私の提案を全部うのみにしろというわけでもございませぬし、ぜひとも今後ともこういった形でやり取りをさせていただきながら、前に進めるべくお話をさせていただけたらと思います。こちらに関しての答弁は結構です。

以上で、私の一般質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

○議長（藤野菊信君） これで寺坂大地君の一般質問を終わります。

次に、1番、中野斗夢君。

1番（中野斗夢君）登壇

○1番（中野斗夢君） 今回の9月定例会最後の一般質問をさせていただきます。今日ちょっと余談なんですけれども、この一般質問が始まる前、控室にいたらちょっと腹痛が来ましてトイレに行って戻ってきたら、佐々木先生が正露丸をくれました。私、初めて人生で正露丸を飲んだんですけれども、今、口と鼻から物すごい病院のような香りが広がっており、今日はその病院のような香りとともに質問をさせていただきたいと思います。ちなみに腹痛はまだ治っておりませんので、質問が

終わる頃には治っていると思いますので、皆様ぜひそれを実感いただきながらお聞きいただければと思います。

それでは、議長のお許しをいただきましたので、通告書に基づいた質問をさせていただきます。

さて、町長は当選当初、開いた記者会見におきまして、越前町にはすばらしい資源がたくさんあるので可能性やチャンスを追求め、関係人口、交流人口、それを増やせる政策をしていきたいと。今のは3月4日、中日新聞からの引用ではありますが、ほかにもたくさんの紙面において関係人口、交流人口の増加というものが出たわけでした。私も関係人口、交流人口を増やすことは越前町を持続可能なまちにする、あるいはさらに発展させることに大変不可欠なことと100%賛同するものであります。

まず用語の定義を説明させていただきます。関係人口、これは比較的新しい用語ではありますがけれども、この意味をご説明申し上げます。関係人口とは、ある地域への訪問の有無、そこに行った、行かないにかかわらず継続的または能動的に関わり続ける人。これを意味します。

さらに国土交通省のほうでは、関係人口を2つに分類しています。それは先ほど申し上げた訪れた、あるいは訪れない、訪問系と非訪問系の2つに分類しています。さらにこの2つを細かく分類することもあります。この説明は時間の都合上、割愛をさせていただきます。ただし簡単にそれを要約しますと、訪問系とは実際に当該地域に訪れ、就労したりボランティアをしたりすること。非訪問系とはふるさと納税とか、あるいはクラウドファンディングにおいて当該地域と接触すること。これを意味します。

次に、交流人口ですが、これは単に観光などで訪れた人々を指します。今回の一般質問では関係人口のほうに、観光で来た人ではなくてボランティアとか就労で訪れる、あるいは納税したりクラウドファンディングでそのまちに接触する、この関係人口のほうに重きを置いて一般質問をしたいと思います。

まず、町内における関係・交流人口に関する町の現状の認識と、人口をさらに増加させるために取り組む予定の政策または町外からの訪問客の移動手段、駅から町内あるいは町内を周る移動手段。これが目下の課題として挙げられますが、その対応策などについて伺います。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

総務理事（山口隆司君） 登壇

○総務理事（山口隆司君） それでは、中野議員のご質問にお答えします。

本町では様々な事業などを通じて、関係・交流人口の増加に向けた施策を行っています。文化・スポーツ合宿誘致事業は、年間1,500人の方が利用されています。移住・二地域居住体験施設事業は年間約20人、宿泊研修所としての生涯学習センター系生分館は町内外を含め年間約6,000人、観光連盟が実施している教育旅行などの体験プログラムも、年間1,000人近くの方が利用されています。今後も引き続きこれらの事業を実施していくとともに、ニーズに応じた新たな体験プログラムなども検討していきたいと考えております。

交通の面では、本町は鉄道の駅から遠く、二次交通は必要不可欠な手段です。現在、二次交通の利用促進を図るために観光連盟が実施している事業として、観光連盟加盟宿泊施設または飲食店を利用される旅行者に対して、タクシーまたは貸切バスを利用された場合の施設利用料金の割引と、レンタカーを利用された場合の施設利用料金の現金返戻を行っており、越前がにシーズンにはJR敦賀駅と越

前海岸を結ぶ共同送迎バスを運行しています。

また、本年10月からは主に観光客を対象とした公共ライドシェアをスタートさせる予定で、これらの利用促進を図りながら、引き続き二次交通対策について検証していきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今ほどご答弁の中にありました公共ライドシェアにつきまして、詳細な説明を求めます。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、お答えします。

公共ライドシェアは、越前町に来られる観光客の町内周遊及び町外への移動手段を確保することを目的に実施する自家用有償旅客運送です。利用方法は予約制で午前9時から午後5時30分の時間帯に、12月31日と1月1日以外毎日運行します。運賃は1キロ500円、その後は1キロごとに300円の追加になります。車両は10人乗りのキャラバン1台、運転手は観光連盟の職員を含め5名程度を予定しています。なお、乗降場所につきましては、越前町観光連盟の会員が経営する施設や公共施設から乗車し、町内観光施設やJR主要駅での降車が主なものになります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） それでは、次の質問に移ります。

私の考える関係人口、これを増やす方法としてまず1つ挙げますと、大学ゼミ合宿の受入れというものがあります。昨今ではゼミ合宿だけでなく、ボランティア等で訪れた学生がその地域と交流を深めて、さらにその地域の発展につながる事案が多くあります。私はこれに大変可能性を感じています。

そうはいっても私自身大学は特殊でして、ゼミ合宿は東シナ海の海上で過ごしたわけでありすけれども、多くの学生は基本的には日本国内の様々な自治体において、ゼミ合宿等を行っているというふうに認識しています。直近でも東京の大学生が越前町に20名弱から来られまして、越前町の越前海岸にある旅館を拠点にゼミ合宿を行いました。私もそのアテンドに少しちょっと参加したんですけれども、やはり若い人が20人弱来られるということでまちも大変にぎわいますし、若い人がそこを歩いているというだけで、まちの雰囲気はがらりと変わったことを実感しております。

そこで、お聞きします。直近5年程度で大学のゼミ合宿とか、そういう地域の課題の発見や解決またはそれを養うための学習、フィールドワークを目的とした団体の受入れ実績はありますか。それを伺います。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） お答えします。

町内での実績としましては、ふるさと茶屋として設立した宮崎地区のくまカフェにおいて、京都外国語大学の大学生がイベントに参加するなどのフィールドワークを行っています。また、越前地区の上岬エリアの活性化の一端として、県内の学生数人を対象に水仙収穫の体験合宿なども実施しております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 続きまして、関連の質問です。

今年度の国の地方創生新規事業として、ふるさとミライカレッジというものがあります。これは若者の力を生かした魅力的な地域づくりや未来に向けた地域づくり、人材の育成、還流の取組を加速させるために、市町村が大学等と連携して学生のフィールドワーク等を受け入れて実施する、地域課題解決プロジェクトの経費の一部を支援するものであります。ということは、国においても学生による地域振興や課題の解決、コミュニティの創出に何らかの期待を寄せているということの表れではないでしょうか。

それでは、質問です。

ゼミ合宿に限らず今後、先ほど申し上げたような活動を目的とした、地域の課題であるとか解決したり見つけたりする、あるいはコミュニティの創出、こういった活動を目的とした大学等高等教育機関の受入れ、またはそれらに特化した政策を展開する予定はありますでしょうか。伺います。

○議長（藤野菊信君） 総務理事。

○総務理事（山口隆司君） それでは、お答えします。

総務省が昨年、全国の地方自治体と大学等高等教育機関が連携した地域づくりの取組に関する状況調査を行ったところ、431の自治体で実施しているとの回答があり、総務省もふるさとミライカレッジと題して、大学などと地域が連携して地域課題を解決するプロジェクトを支援する事業を実施しております。

本町におきましては海外との連携になりますが、マレーシア人事院をはじめとする政府機関やマレーシア留学生の受入れを実施するなどの教育交流を行ってまいりました。今後は先ほど申し上げました受入れ状況等を注視しながら、必要に応じて新たな連携に向けた協議なども検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 次に、移住体験施設の利用状況と今の運用の状況について伺います。

直近過去3年間の移住体験施設の利用状況あるいは稼働状況と、利用者からの感想などを教えてください。

○議長（藤野菊信君） 建設理事。

○建設理事（原 雅哉君） それでは、ご質問にお答えいたします。

移住・二地域居住体験施設につきましては、平成27年に越前地区のモハージュ、平成28年に宮崎地区のラフーラをお試し移住や二拠点生活を体験することを目的に、戸建て住宅をリノベーションしたファミリー向けの施設として開設いたしました。

過去3年間の利用実績ですが、令和4年度は新型コロナウイルス感染症により受入れを中止しましたので、令和5年、6年の2年間の実績で申し上げますとモハージュは16世帯38人、延べ94日間、ラフーラは6世帯11人、延べ32日間、2施設合わせて22世帯49人の方が利用されました。施設を利用された方のお住まいは関西圏が51%、中京圏が30.6%、関東圏が16.4%となっております。

施設を利用される方には林業体験や越前焼体験、魚釣り体験など町が用意した体験プログラムの中から、興味のあるプログラム1つ以上に参加いただくこととしているほか、空き家情報バンク登録物件や保育所、図書館の見学など本町を肌で感じていただき、移住の参考としていただいております。人気のプログラムには、町移住・定住支援員による火おこしや農作業など田舎暮らしを体験するものであ

ったり、お子様連れには和菓子作り体験と越前町の話などがございます。

利用者からは施設が快適でよかった、美しい海と近所の皆さんの温かさに触れることができたなど、好意的なご意見をいただいている一方で、冬の季節も確認したい、そのまま住める空き家がなかった、車を持たない人には住むのが難しいなどのご意見をいただいております。このような中、令和5年、6年の利用者のうち2世帯3人の方が本町に移住をされております。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 現在当該施設を利用するには、今のモハーージュ、ラフーラを利用するには体験プログラムを体験することが必須となっていますね。昨今では単に観光だけでなく、そこに体験とか学びとか付加価値をつけた〇〇ツーリズムが広く認知されています。

そこで、当該施設を利用するに当たって、町が用意したプログラムにこだわらず利用者側の意向を酌んだプログラム、あるいは町内で活動するボランティアグループなどが考案したプログラム、または利用者側がどのような意図で移住体験施設を利用したいのか、これをしっかりとヒアリングして、それらが将来まちの発展につながるというふうに行行政側が判断するのであれば、その施設の利用の方法をもう少し拡大したり、あるいは施設利用料という形で料金を設定するという方法も考えられます。

ただ、やはり施設利用料を取る、当初取っていたと思うんですけども、これを取らなくなったことには経緯もあると思います。そこも踏まえた上で町の考えを伺います。例を申し上げますと町内外の中学生団体が町内の自然とか文化、歴史に触れ合いながら宿泊研修を行いたいとか、あるいはどこかの大学のゼミとか高校のクラブ活動が地域の課題発見とか、地域コミュニティを学ぶためにこの町内で合宿を行いたいとか様々あると思います。そういったことを踏まえてご答弁いただければと思います。

○議長（藤野菊信君） 建設理事。

○建設理事（原 雅哉君） それでは、お答えいたします。

まず、体験プログラムの充実についてでございますが、開設当時には各施設を管理していただく地区住民のボランティア団体があり、団体の企画したプログラムや地域住民との交流会などもございましたが、高齢化などによるスタッフの減少により運営ができなくなったことから、観光連盟など関係団体の協力によりまして、現在の有料プログラムへ移行した経緯がございます。

プログラムの内容は、利用者の方からいただいたアンケートを参考とし、毎年関係団体の現状に合わせて調整をいたしております。魅力あるプログラムの構築には、議員のおっしゃるような地域おこし団体等のご意見を伺うことや、ご協力いただくことは有効な手段と考えております。また、施設活用の拡大につきましては、目的の設定など十分な検討が必要となります。移住・二地域居住体験施設の稼働実績は、先ほど申し上げたとおり十分な稼働実績と言えるものではありませんので、所有者の意向を踏まえた上ではありますが、プログラムの充実や活用拡大について前向きに検討してまいりたいと考えております。

いずれにいたしましても、本町の活力を維持するためには関係人口の増加を図ることは重要であり、そのためには既存施設の有効活用をはじめ町内の海や山、歴史、文化など様々な地域資源を活用した施策を展開していきたいと考えておりますので、ご理解を賜りますようお願いいたします。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1 番（中野斗夢君） 先ほど来理事者側の答弁をお聞きしていますと、検討とか検証とかそういう言葉を多く耳にします。この言葉を後ろ向きと捉えることはいたしませんし、ただ、大変前向きだなというふうに捉えることもできません。私がこの質問をしている意図としましては、冒頭申し上げた町長の関係・交流人口を増やしたいという思いに100%賛同するからでありますし、今現在地域で少しでも来てくれる人を増やそう、訪れてくれる人を増やそうとそう懸命に頑張っている自治団体や任意団体、ボランティア団体の方々の町も頑張っている、行政も頑張っているから自分たちも頑張ろうと、こういうモチベーションを高めるため、その思いからこの質問をしているわけであります。

大問1の関連質問の最後になりますが、冒頭お聞きしたことを再度、町長に聞きたいと思います。関係人口、交流人口を増加させるために取り組む予定の政策、これは町長の思いや夢でも結構ですので、ぜひ我々議員あるいは今の傍聴に来ていただいている町民に共有をしていただきたい。このように思います。いかがでしょうか。

○議長（藤野菊信君） 町長。

○町長（高田浩樹君） それでは、ご質問にお答えします。

人口減少、少子高齢化の急激な進展が想定される中、当町において主に観光などでほかの地域の方々と交流を図る交流人口、そして、関係を深め、当町を応援してくれる関係人口を増やしていくことはとても重要であります。

いつも述べているんですけども、当町には冬の味覚の王様、越前がに、日本六古窯の一つである越前焼、織田信長公ゆかりの劔神社、全国で唯一3面の人工芝のホッケー場、そして、越前水仙や美しい海岸線など、すばらしい資源がたくさんあります。

そのような当町において体験的な観光、文化や学術、スポーツなどによる交流、ワーケーションや地域活動の参加の機会などにより交流の深化、関係の育成、未来の共創を促していくことはとても重要であり、そして、何よりもお一人お一人との貴重な交流の機会を大切にしていくこと、そういったことを通して関係人口の拡大につながっていくものと考えております。いずれにいたしましても、当町の特色を生かし、より適した形で関係人口の拡大をしていくために模索していきたいと考えております。

今ほどおっしゃられた具体的な施策、また、どこの分野に重みづけをしていくのか、そういったことについてはまだまだ検討の余地があります。ご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1 番（中野斗夢君） ぜひともスピード感を持って関係人口、交流人口の政策には取り組まないと、世界はもう本当すさまじいスピードで進んでいます。それに追い越されないというか、それにもう本当にそれを感じないぐらいのスピードですので、ぜひともスピード感を持って取り組みたいと思いますし、この関連の一般質問、今後も続けていきたいと思いますので、ぜひとも一緒に取り組んでいきたいと思いますのでご協力をお願いいたします。

次に、大問2に移ります。

現在、町内の小中学校において行われている課題研究あるいは探究授業、それらに類似した取組と児童や学生が卒業後も越前町に興味、関心、関わりを持ってもらえるような政策について伺います。

まず現在、町内の小中学校において行われている課題研究やそれらに類似したカリキュラムなどの実施の有無と、その効果に期待することを教育長に伺います。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

現在、越前町内の学校では児童・生徒の自ら学び、自ら考え、課題を追求する力を育む探究的な学びのある授業づくりを実践しています。どの教科においても探究的な学び、すなわち児童・生徒が自ら問いを立て、情報収集や意見交換を通じて課題解決に取り組む学習活動を充実させるために、各校で実践、研究を行っているところです。単に知識を一方的に受け取るのではなく、好奇心や関心に基づいて主体的、対話的で深い学びを展開し、課題解決能力や創造力、思考力、判断力、表現力などを育むことを目的としています。

中でも総合的な学習の時間においては、本年度、町内全ての学校で越前町ふるさと学習を主たるテーマとして取り組んでいます。その狙いとしましては、児童・生徒数の減少に伴い学校再編を進めている本町において、これまで学校教育を支えてきた地域の人的資源、物的資源、文化的資源など、いわゆる教育資源を今後も継続、維持したいという思いと、児童・生徒に探究的な学びを通してふるさと越前町への理解を深め、愛着心と誇りを育むことです。

今年4月に実施されました全国学力・学習状況調査における、地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかという質問に対して、「そう思う」「どちらかというと思う」と答えた割合は本町の小学6年生、中学3年生のいずれも全国や県の数値を上回りました。こうした児童・生徒の思いに応えられるように、学校における探究活動をさらに充実させ、ふるさとの未来と自らの将来を重ねて思い描く力を育み、ふるさとの活性化と発展に貢献できる人材を育成してまいりたいと思います。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 今のご答弁を聞いていますと、全国学力・学習状況調査における地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますかという質問に対して、「そう思う」「どちらかというと思う」、どちらかといえどかそういう設問はちょっといまいち分からないですけれども、それを答えた割合が本町の小学6年生、中学3年生がいずれも全国や県の数値を上回った。大変これは心強いですし、うれしい限りです。

愛国というところと毛嫌いする人もいますけれども、愛郷という言葉には、愛郷、ちょっとニュアンスが違った、愛郷、愛に郷ですね。これはそんなに毛嫌いする人はいないかなと。ぜひ愛郷という部分は今の小学6年生、中学3年生の意図をしっかりと酌んで、この愛郷という言葉を胸に越前町をよくしてほしいなというふうに思います。

次に、今ご答弁の中にありました課題研究、最終的な総括として探究して終わり、もちろんこの過程って物すごく大事なんですけども、過程や結果などを行政あるいは我々議会に提言するような形を取って、それを我々がしっかり受け入れ、議論し、実現の可能性が高いものは実現する。このような経験が将来にわたり子どもたちが越前町に興味、関心を持ってもらえるようなことにつながるのではないかなというふうに私は考えます。

自分が見つけた課題、それをいろんな人と共有し、解決し、こうすればいいんじゃないかというのを行政とか我々議会に提言する。それを我々大人がしっかり受け入れて、実現可能性が高いものは実現してあげる。このような経験というのは、

本当に生徒とか児童にとって大変深い経験になるというふうに思います。例を挙げれば鳥取市の小学生が市長に具体的に欲しい公園とか、学校の交流方法を提案しました。ただ、私ちょっと個人的に申し上げますと公園が欲しいとか、何か何々を造ってほしいとか、これはちょっと課題研究とか探究の授業とはそぐわないのではないかなと思うんですけれども、ただ、やはり学校の交流方法の提案とか、あるいは千葉県のこども模擬議会で提言された具体的な政策の提言、東京都渋谷区のほうでは中学2年生が課題研究の一環として、まちづくりをテーマにしてその結果を区に提言し、それを区が真剣に議論し、予算をしっかりとつけて実現を図っていく。このようなことが考えられますが、このような実現に向けて町のお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

先ほども述べました総合的な学習の一例をご紹介します。朝日中学校3年生が今年1月に生徒たちが地域に関する提案をいたしました。実現したものとして、生徒作成による鯖浦線の歴史を紹介したポスターを3月末まで福鉄バスの西田中バス停に掲示しました。越前中学校では全校生徒が漁船に乗り、空と海をバックに撮影した学校ポスターを制作いたしました。撮影は丹生高等学校写真部が担当し、撮影した写真を使ったポスターは町内の旅館や公共施設に掲示し、ふるさとのPRに寄与しています。

また、丹生高等学校の中高一貫連携クラスでは毎年、町三役や役場職員に探究学習の成果を発表しており、その中には生徒たちのアイデアが実現しているものもあります。具体的には生徒が考案したレシピで作成したごろごろ丹生ソースは、地元産のタマネギ、ニンニク、タケノコ、干しシイタケを使用し、毎年1回学校給食で提供されています。

また、まちづくり団体ココクルーが作成した移住者向けのまち発見マップには、生徒が撮影した写真や取材した情報が掲載されるなど、実際に事業化されている例もあります。

これらの取組を通じて生徒たちが自ら考えた政策やアイデアが具体的な形となることで、町に対する関心や愛着が高まるとともに、ふるさとを愛し、自信と誇りを持つ子どもたちの育成に寄与すると考えています。今後も地域や行政との連携を深めながら、地域の子どもたちが主体的にまちづくりに関わる機会を増やすことで、より多くの児童・生徒が地域に愛着を持ち、自信と誇りを育むことを目指してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 最後に、現在閉校した校舎、この跡地利用について委員会等が設置されていると思います。委員会の進捗状況、そしてまた長期的な展望、これとは別として短期的な利用方法として、町内の小中高生に利用方法の検討を促してみてはと思いますが、いかがでしょうか。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） それでは、ご質問にお答えします。

現在、小学校再編後の学校の跡地及び施設の有効活用を検討するため、旧常磐小学校と旧四ヶ浦小学校において、それぞれ学校跡地利活用検討委員会を設置しています。当該施設は地域との関わりも深く、町の避難所として指定されていることなども踏まえ、今後の有効な活用方法について検討を進めています。また、来

年3月に閉校となる萩野小学校においても、近く検討委員会を設置する予定です。検討委員会では中長期的な視野に立ち、将来を見据えた活用策を検討しています。第1回の検討委員会では、委員から多くの提案や意見が出されており、今後は他市町の利用方法も参考にしながら検討を進めてまいります。

また、議員ご提案の短期的な活用方法については、子どもの視点での発想を取り入れることは大切であると捉えており、その意見を反映させることができれば、子どもたちに喜びを与え、地域への関心や愛着の醸成にもつながると考えています。子どもたちだけに限らず、子ども会や保護者の有志など幅広く提案をいただけるよう、学校跡地利活用検討委員会で協議を進めながら、実現可能な提案を積極的に取り入れ、よりよい活用策を模索してまいります。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） 私が考える学校跡地の利用検討、これ跡地という考えではないかもしれないですけども、短期的な活用方法としては、何か当たり前のようで面白いと思うのは、学校内の中古物品の販売会。これ机とか椅子に限らずビーカーとかメスシリンダーとか、こういうちょっと学校に特化したようなものというのは、私も生け花なんかもするんですけども、こういう芸術家とかそういう人たちにとって、とっても貴重な材料になったりする。買うとめっちゃくちゃ高いと。やっぱりそういう小学校とかにあるような中古物品、もう使われなくなった学校を利用して中古物品の販売会を行うとか、こういったことも短期的な利用方法としては考えられるのかなというふうに思います。

昨日も私、家が近いもので四ヶ浦小学校の周りを車で走っていたら、四ヶ浦小学校当時の体操服、今はまだ児童が着ていますから、その子たちが枯れた松の木のそばで五、六人が何か遊んでいたんですね。そこには何か、何というか悲しげなものもありますし、哀愁というものもありまして、やはり小学校というのはいろんな今まで培われてきた歴史というのがありますから、売却とか何かそういうことって考えるとすごく寂しい思いがするんですけども、そういったことを児童とか生徒に依頼することで突拍子もないけれども、そこにはやはり学生とか児童の独自の目線が入った、本当にユニークでワンダーな取組があるなというふうに思いますし、ぜひともそこには私、期待する部分がありますから、ぜひ小中高生にこういった建物があるけれども、どういうふうにしていきたいと、それが10年20年じゃなくて、ここ1年の間でできる鬼ごっこでもいい、かくれんぼでもいい、何でもいいじゃないですか。何かそういったものを提案して、学生とか児童にこれを僕たちがやったんだ、私たちが実現したんだという実感をぜひ提供していただきたい。このように思います。

私自身も小中学生時代、探究という名目で授業を受けた。これ、あんまり記憶はないんです。では、なぜここまで私、探究について申し上げるかという高校、大学、特に高校のときの探究授業の経験があるからです。週1回、午前中4時間を私ずっと課題研究していました。決して机に向かうだけじゃなくて、フィールドに出て自然に触れて仲間とか生徒、特に高校時代、多かったのは地域の人との交流ですね。地域の人たちと毎週のように膝を突き合わせて、地域の課題とかあるいは地域の問題、そして地域で何かやりたいことに向き合いました。時には地域の大学生とか他県の高校生との交流もありました。最終的には学会とかシンポジウムで発表して、たくさんの批評をいただきました。

この経験というのは本当に重いものでありました。自分で言うのも何ですけど

も、探究で育まれたなと自負することたくさんあります。その一つが先ほど申し上げている地域への愛着、愛郷です。これが今の私の活動の源でもあります。もっとこれについて語りたいところではありますが、議場ですから今度、教育長と2人でしっかり語りたいなというふうに思います。

最後に、教育長に伺います。教育長は今、幸福ですか。

○議長（藤野菊信君） 教育長。

○教育長（大川伸介君） 幸福ですかと問われて、胸を張って幸福ですと即答できる人がどれぐらいいるか分かりませんが、私自身は幸せだと思っています。世界保健機構、WHOが提唱しておりますウェルビーイング、その概念に照らし合わせて考えてみますと身体的にも健康ですし、精神的にも健康ですし、何よりもこうして仕事を与えていただいて人とのつながりであるとか、あるいはやりがいを感じているところが一番大きいと思います。考えてみれば学校も地方自治体も、そこに所属する、あるいは関係する人たちのウェルビーイングを実現するためにあるのかなというふうに思っているところです。

以上です。

○議長（藤野菊信君） 中野斗夢君。

○1番（中野斗夢君） ちょっと非常にセクシーな答弁でしたけれども、次、建設理事に聞きたいなと思ったんですけれども、幸福そうなのであえて聞きませんけれども、これを聞いたのは先日行われた地方創生フォーラム in 福井、これは最初に福井県知事もご挨拶申し上げるぐらい非常に大きなフォーラムでしたけれども、これの動画配信サイトでの配信がありました。

先ほどちょっと答弁の中にありましたウェルビーイング、幸福、ちなみにハッピーとは違うんですね。幸福、ハッピーというのは500円拾った、幸せがハッピー、でも、この500円を使って何か自分のためにするとか、あるいは人のためにする。これがある意味ウェルビーイングと。ですから端的なものがハッピー、もう一つの長期的な幸せとか幸福というのがウェルビーイングでありますけれども、ウェルビーイングを高める地域づくり、ディスカッションの中でこういう言葉、聞いて当たり前だなと思ったんですが、改めて言われるとそうだなと思います。

町長とか教育長とかこういう町行政の指導者がウェルビーイング、幸福でないとそれを受ける側、町民とかあるいは職員、そういう人たちはウェルビーイングにはなれないと。これは本当に何か聞いていて当たり前ですけれども、改めて言われるとそうだなというふうに思いました。

ですから今、教育長、大変深い言葉をいただきました。ウェルビーイングを実現するために行政とか教育というものがあるんだなと。幸福というものを追求しながら、今後も越前町のさらなる発展、これは関係人口、交流人口、先ほどの一般質問の中にもたくさんのウェルビーイングが含まれていると思います。ぜひこの目標を達成するためにも、町行政の方々には頑張っていていただきたいですし、我々議員もしっかりと協力していきたいと思います。今の地方創生フォーラム in 福井、これはまだ動画配信サイトにアーカイブが残っていますから、ぜひご覧いただきたいというふうに思います。

以上で、質問を終わります。

○議長（藤野菊信君） これで中野斗夢君の一般質問を終わります。

以上で本日の日程は終了いたしました。

お諮りします。

本日の会議はこれで散会したいと思います。

これにご異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(藤野菊信君) 異議なしと認めます。

したがって、本日はこれで散会いたします。

なお、11時15分から全員協議会を開催いたしますので、全員協議会室にお集まりください。よろしくお願いいたします。

散会 午前11時06分